



令和5年度

太田小だより 2月号

【学校教育目標】

「自他を大切に主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成」
 ～やさしく かしこく たくましく みんなで伸び行く太田小～
 ○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○たくましい子

さいたま市立太田小学校
 令和6年1月25日（木）発行
 全校児童数571人



住所 さいたま市岩槻区仲町1-17-3
 電話 048-756-0515
 FAX 048-758-7487
 メール ota-e@saitama-city.ed.jp
 Web https://ota-e.saitama-city.ed.jp



「さいたま STEAMS 教育」「人権教育」研究発表会

校長 田波 巨士

今年、令和6年能登半島地震、またその被災地に物資を搬送する任務中の航空機事故など不穏な事態から始まってしまいました。連日の報道等で、被災地での甚大な被害の様相や避難所の生活の困難さ等が明らかになり、本当にやるせない思いでいっぱいになります。お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、その御家族や被害に遭われた方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

3学期の始業式で、「私たちが、被害に遭われた皆様に対して、今すぐ何か手伝ったり、必要な物を送ったりすることは難しいと思います。ですが、被害に遭われた方々の立場に立って物事を考えることはできます。電気や水道・ガスなどのライフラインが途切れて、どのように生活を送っているのだろうか。小・中学生の子どもたちはどんな思いだろうか。これから、復興のために何が必要なのだろうかなど、相手の立場に立って物事を考えることは大切なことです。皆さんには、相手の立場に立って考えられる人になってほしいと思います。」と子どもたちに話しました。被災地域の皆様の安全と一日も早い復興をお祈り申し上げますとともに、自分たちにできることは何か、子どもたちと一緒に考えていきたいです。

さて、1/23（火）に本校において、さいたま市教育委員会から令和3・4・5年度で委嘱を受けておりました「さいたま STEAMS 教育」、また令和5年度に同じく委嘱をうけました「人権教育」の研究発表会を開催しました。

本校では、教科横断的な視点を踏まえて、協働的な学びを充実させることで、「さいたま STEAMS 教育」に示されているような、例えば「実社会につながる問題発見・解決能力」、「問題を分析する力」、「芸術的な感性も生かし心豊かな生活や社会の価値を作る出す創造性」、「あきらめないで挑戦する力」などの資質や能力の育成を目指し、研究を進めてきました。研究を進めていく中で、児童が自ら目的意識をもって課題を立て主体的に学ぶ様子や、課題の解決に向けて教科等のつながりを意識したり、必要に応じて考えを交流したりするような協働的に学ぶ様子が多く見られるようになってきました。また、そのような学習活動を進める中で、互いの考え方の良さを認め、協力してまとめていく姿も多く見られ、相手を尊重するというような人権意識の高まりが感じられるようになってきました。

当日は、市内の多くの先生方が参観する中、5年2組が算数、3年2組が図工の授業を行いました。5年2組の算数では、「四角形と三角形の面積」の単元で、本時は、ひし形の性質に着目し、面積の求め方を考えるという授業内容でした。クラウド上で、友達との考え方を共有し、自分の考え方の補助としたり、新たな考え方のヒントとしたりしながら、主体的に課題解決に向かう様子がよく見られました。3年2組の図工では、「みんなでオン・ステージ」という単元で、本時は、身近材料を組み合わせ世界に一つだけの弦楽器を作るという授業内容でした。理科の「音を出して調べよう」や音楽の「チャチャチャのリズムで楽しもう」の学習体験を想起しながら、図工の作品作りに生かすという教科のつながりを意識して授業を行いました。楽器を作る中で、友達の作品の良い所や参考にしたいところを自分の作品に積極的に取り入れる様子をみることができました。授業後の協議会において、さいたま市教育委員会の指導主事、参会した多くの先生方からの御指導・御意見をいただきました。また、東京学芸大学教育学部准教授 大村 龍太郎先生の講話において、本校の研究に対する称賛や課題、今後の研究の方向性等について教えていただきました。本校児童が、さらによりよく成長できるよう研究を積み重ね、授業の充実を図ってまいります。本研究に携わっていただきました指導者の皆様、地域並びに保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。